

若者の成長を支援する専門職＝ユースワーカー 養成のためのプログラム

立命館大学大学院人間科学研究科と京都市ユースサービス協会の共同によるプログラム

なぜこのプログラムを開設したか・・・

若者を巡る問題

若者を巡る社会問題は、その形を変えながら社会的に提起され続けています。事件があれば、そのたびに原因が探求されますが、いくら探っても明確な答えが出てくるケースの方が少なく、現場は性急な対症療法を迫られるばかりです。一方でひきこもりや、不安定な就業・無業の若者を巡る問題、子ども・若者と孤立や貧困も対応の難しい問題として注目を集めています。しかし、それについても即効性のある対応については議論されますが、じっくり、問題の背景にアプローチしていく方法論についての議論は十分とはいえません。

そうした現代の問題に対応するためには、単なる“原因探し”でなく、若者の「課題」そのものへの社会的なサポートの枠組みを作っていくことが必要です。そして、ばらばらに行われがちな支援やサービスを包括的に展開できるような、基盤となる考え方を明確にしていくことが重要です。その際に、若者を支援対象としてだけとらえることは、問題の一面しかとらえない考えといえます。成長過程にある存在として“すべての”若者が、多様な経験の機会を得られるようにしていくことが重要であり、その両面を視野に入れつつ関わる方法論を鍛え、その担い手となる専門スタッフを育てていくことが焦点となっているのです。



若者の今とこれからを支えるユースサービス／ユースワーク

京都においては、思春期の子どもや青年(以下若者と記す)の成長を支援する営みとして、ヨーロッパなどのユースサービス／ユースワークの考え方を取り入れながら、青少年施設を中心とした取り組みが行われています。地域社会の中で「やんちゃ」と言われ排除されがちな若者を受け入れて、社会とのつなぎ直しを支援したり、ひきこもりがちな若者や、対人関係が苦手だったり軽度の障害を持つゆえに社会的な関係から切り離されがちな若者の居場所作りが行われるなど、従来の「青少年健全育成」や「非行対策」を超える、若者の今とこれからを支える活動がされてきています。

ユースサービス協会と立命館大学の共同研究

そうした活動に従事するスタッフ(＝ユースワーカー)の経験を評価し、その専門性を確かなものにしていくために、事業運営の主体である京都市ユースサービス協会では、専門的な人材の養成・研修の専門的なコースを開発する必要を感じ、立命館大学と共同研究を行うこととしました。両者は、2004年1月から正式に共同研究の協定を取り結び、「青少年支援の専門職(ユースワーカー)養成専門コース設置に向けた研究会」を発足させ検討を進めました。その成果として、2006年から、全国初めてとなるユースワーカー養成プログラムが大学院応用人間科学研究科に設置され、2021年春の時点で70人を超える人がプログラムを修了し、各地の若者と関わる現場で活躍する修了生も数多くいます。



共同研究では、日本におけるユースワークのあり方を探求していくとともに、若者と関わる取り組みの学問的な根拠の強化に向けた、若者学(ユース・スタディーズ)研究を進め、養成プログラムに反映させていっています。

コースの特徴

- このプログラムは、ヨーロッパ圏でのユースサービス(ユースワーク)の考え方や経験に学びながら、それを生かした日本的な展開を創造することを目指しています。
- このプログラムは、修了後に現場ですぐに働くことのできる力量形成をねらいとしています。上記のような、「現代的な」課題にも取り組む専門職としての養成がねらいです。
- このプログラムは現場での実習およびスーパーバイズと、それを省察し分析する大学での学習とをリンクさせるよう設計されています。
- 関連する職に現に就いている人と学部卒後に入学した院生とがいっしょに学ぶことで、相互の経験を持ち寄って学び合うことのできる場とすることを目指しています。そのために、土曜・夜間開講など社会人にも受講しやすいカリキュラムとしています。
- このプログラムは、全国に先駆けて開設されたもので、今後の青少年問題に関わる人材育成への「発信的」なプログラムとなっています。

プログラムの構成

<概論>

- 青少年の育成や支援に関する施策の流れや実態、ユースサービスの概念や取り組みの観点などを概観します。

<演習>

- 若者と関わるスキル、支援者としての自己理解、若者をとらえる視点などについてワーク形式も交えて学ぶとともに、実践を省察し分析する方法について、実習と連関させながら学びます。

<実習(インターンシップ)>

- 実習は、現場スタッフをスーパーバイザーとして、ユースワークに必要な考え方・態度・スキルを実践的に学ぶものです。京都市青少年活動センター、ユースサービス協会での実習を基本とします(それ以外のユースワーク実践現場での実習についても可能な範囲で調整します)。
- 実習は①長期間通い型、②プロジェクト参加型など、受講生と実習指導者、担当教員との間でのマッチングを行った上で、無理のない形で進めることができます。

<関連科目>

- 上記のプログラム固有の科目と併せて、指定した関連科目を履修してもらいます。
科目はすべて人間科学研究科の開設科目です。テーマは領域や主題を意味します。実際の科目名称や時間割は人間科学研究科にお問い合わせください。

	テーマ	取得単位	
1	青少年とその背景の理解(ユースワーク概論)	2単位	前期開講(隔週土曜午後)
2	対人関係の理解と支援(医学・心理学領域)	4単位	既存開講授業から充当
3	対人関係の理解と支援(社会学・ソーシャルワーク領域)	4単位	既存開講授業から充当
4	演習	2単位	後期開講(隔週土曜午後)
5	実習	2単位	インターンシップ(90時間)
*	ユースワーク実践研究(履修が望まれる関連科目)	2単位	前期開講(「3」の中に含まれる)

その他

- プログラムは、人間科学研究科教員とユースサービス協会スタッフにより担われます。それにより受講生は大学における知と、実践現場における実践知の両面から指導を受けることができます。
- ユースサービス協会による修了認定を取得できます。また、全国的な認定の制度化も進められています。
- 人間科学研究科の院生は正規の受講生として登録できます。
※「ユースワーク概論」については他研究科からの受講も受け入れます。